

岸田首相で日本は大丈夫か

―解散含みの政局と融解する政党政治

ノンフィクション作家、評論家
塩田潮

- * 6月に解散出来なかった岸田首相
- * 総裁再選・長期政権への思惑
- * 最大の誤算は公明党との軋轢
- * 強い岸田首相の派閥へのこだわり
- * 政治リーダーとしての欠点について
- * 安全保障・防衛問題に注力する背景
- * 来年4月までに憲法改正するという公約
- * 憲法改正問題が直面する課題
- * 維新の会にみる日本政治の変化
- * 10月か11月にも総選挙の可能性



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日は塩田先生にお越しいただきました。塩田先生とは私も長いお付き合いで、皆さんもご存じだと思いますけれども、『週刊東洋経済』の「フォーカス政治」という欄に2000年からずっと23年間ご執筆をいただいています。それから、2022年に私どもの東洋経済から『大阪政治攻防50年』という本を書いていただいております。

さらに、実は現在も安全保障政策の攻防史を、憲法誕生から現在までという副題で東洋経済から出す準備をいただいて、ご執筆中ということで、10月に発刊になります。安全保障政策が決まる舞台裏についての書物はあるようでありませので、塩田先生の長年の取材の成果を

そこにまとめていただくということで、現在進行しております。

本日は、岸田政権の内実、外から見ているとわからない点多々ありますので、その話をさせていただきます。野党のほうの動向ですとか、それから与党内ではご承知のように自民党と公明党が珍しく激しくぶつかっている面もありますので、そうしたことがどういふことなのか、皆さんの疑問点、お知りになりたい点も多々あると思いますので、先生からじっくりお話を伺いたいと思います。

それでは先生、よろしく申し上げます。（拍手）